

1 中期学校経営方針

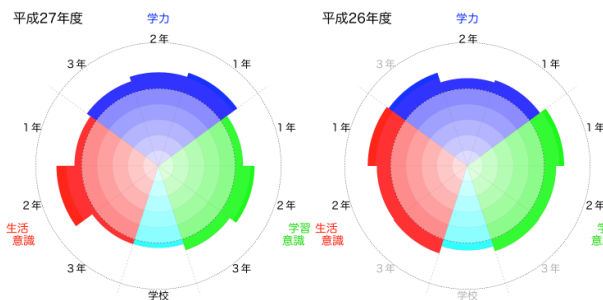
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
①生徒一人ひとりの学習意欲を高め、確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む「生き方の教育」を推進します。	
②人権尊重を基盤に置き、豊かなかかわり合いを通して社会性を育み、思いやりの心を育てます。	
③教職員が相互に啓発・連携・協働する活気あふれる学校運営に取り組みます。	
④生徒の実態や地域の特性を生かした教育課程の編成と運営に努め、「開かれた学校づくり」を推進します。	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)		言語活動を充実させ、知識や技能の習得のみならず、学習意欲の向上や主体的な課題解決力の定着をさせる授業を行います。	①「言語活動の充実」…授業内でのグループ活動を活発化し、正確に、「聞く・話す」力を身につけさせます。 ②「少人数・TT授業の充実」…数学1年TT、2、3年少人数指導、英語1年少人数指導を実施し、基礎・基本の確実な定着を図り、個に応じた指導を充実させます。 ③「読書活動の充実」…朝読書を実施し、言語能力の向上を図ります。
	担当		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に、横浜市の平均を上回っている状況である。「活用」問題の正答率と「基礎・基本」の正答率が国語を除き、どちらも市の平均を上回っている。学習意識においても、すべての教科において「(教科)の勉強が好き・どちらかという好き」の割合が高い状況にある。これは大変意識が高い中で学習が行われており、特に「基礎・基本」の正答率の高さに結びついていると考えられる。ただ、課題として挙げられるのは、活用問題の正答率に教科ごとによらつきがみられる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全学年とも市平均を上回っていたが、2年生では、「書く力」を身につけることが課題。
- 社会科：全学年とも市平均を上回っていた。学習の意識が高く、すべての観点で平均を上回っている。
- 数学科：全てにおいて市平均を上回っていた。図形や数学的事象・思考等、昨年度からの改善がみられた。
- 理科：ほぼ市平均を上回り「知識」は定着しているが、1年生では技能に関する点が課題。
- 外国語科：全学年、市平均を上回り「関心・意欲」も高い。1、2年において表現の力が大変高い。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成25年度から平成27年度までの経年変化で見られることは、校全体として学習に対しての関心・意欲が高い状態を維持していること、各教科で「知識・理解」に関する設問への正答率が高いこと、「活用」に関する設問への正答率が少しずつではあるが上昇していることである。これは、教師・生徒ともに授業に対して意識を高めていこうとする流れが、谷本中学校全体に生まれたことに他ならない。

また、課題としては「知識」の設問の正答率に比べ、「活用」の正答率が伸び悩んでいる点が挙げられる。授業改善や取り組み改善を図るなど、「活用」面での成長を継続的に行っていきたい。

3 平成28年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- スピーチの相互評価プリントを工夫し、相手の話を注意深く聞き、話題を総合的にとらえる力を育てます。
- 心情の把握、論理の展開など内容の理解と自分の考えを文章で表現する力を充実させます。

社会

- 基本的知識に加えて高度な応用的内容や細かい知識にも踏み込んだ授業を展開します。
- グループワークや調べ学習、発表など多様な学習形態を研究し、授業実践につなげます。

数学

- 応用問題では生徒の多様な解き方を共有しあえる場面を作り、自分の考えを磨き上げる指導をします。
- 他の先生の授業案を参考にし、授業の振り返りを行い個々の授業力を向上させます。

理科

- 「間違えてもいいから自分で答えよう」のよびかけと、何がいけなくて間違えたのかを説明する場面を設定します。
- 考察では自力で思考をする時間を多く設けます。

音楽

- 個別指導を充実させ、苦手意識を持つ生徒に対しての支援をていねいに行います。
- 鑑賞の授業を充実させ、音楽のよさ・感動を文章表現し自己の音楽表現活動に生かすことを目指します。

美術

- 作業工程の明確化、生徒の動線を意識した教室環境づくりを行い、分からない生徒を一人でも減らします。
- 参考資料・作品の展示・展覧会の案内などを積極的にいき美術に触れる機会を増やします。

技術・家庭

- 生徒間・班での相互評価を取り入れ、生徒同士の振り返り学習にも重点を置き、学習内容をより深める学習形態を取り入れます。
- 日常生活に関連づけた内容で発言を引き出します。

外国語

- 表現活動を多く取り入れ、生徒が自ら英語で、自分の考えや状況を説明できるように支援します。
- ノート等のチェックや音読、会話テストを通して実態をつかみ実態にあった授業を行います。

特別活動

- 望ましい集団活動を通して、心身共に健全な調和のとれた発達と個性の伸長を図ります。
- 実践的活動の中で、自主自立の態度を育て、生き方についての自覚、自己を生かす力を養います。

総合的な学習の時間

- 学び方や考え方を身につけ、問題解決や探求的な活動に自主的創造的に取り組む姿勢を育てます。
- 行事を通して主体的に学び、考え、探求することで、人・自然・文化への思いやり・生きる力を育てます。

個別支援学級

- 社会生活に必要な態度と能力の育成を図り、自立の基礎を培います。
- 個別指導計画に基づき、授業や学習集団を工夫し、指導の充実を図ります。